

第 43 回 SPring-8 選定委員会議事概要

1. 日 時：2026 年 2 月 6 日（金）14:00～16:00
2. 場 所：ステーションコンファレンス東京 605B+C 及び Web 会議
3. 出席者：〔委 員〕 野村昌治（委員長）、有馬孝尚、朝倉清高、足立伸一、伊藤孝憲、伊藤みほ、岡島敏浩、金谷利治、柴山充弘、高橋正光、高橋嘉夫、廣沢一郎、矢代航
〔JASRI〕 中川敦史、井上哲也、安藤慶明、熊坂崇、登野健介、佐藤眞直
〔オブザーバー：文部科学省〕 馬場大輔、伊藤有佳子、菅原道泰、東周論
〔オブザーバー：理化学研究所〕 生越満、西村勇人
〔事務局他〕 久保田康成、池本夕佳、佐藤義之、池端宏之、宮脇悠輔
(以上、敬称略)

4. 配付資料：
 - ・ 2025～2026 年度 SPring-8 選定委員会委員名簿
 - ・ 第 42 回 SPring-8 選定委員会議事概要（案）
 - ・ SPring-8 の現状について
 - ・ 2026A 期 SPring-8 利用研究課題選定について
 - ・ (別冊) 2026A 期 SPring-8 利用研究課題審査結果リスト
 - ・ 2025B 期 II 期/III 期 SPring-8 利用研究課題選定結果について
 - ・ 2026B 期（2026 年度後期）SPring-8 利用研究課題の募集および選定について
 - ・ 専用施設の評価・審査結果について
 - ・ 成果の発表等状況について
 - ・ JASRI のビームタイム利用について

5. 議 事：

1) 開会

開会にあたり、JASRI 中川理事長より以下の挨拶があった。

特定放射光施設からの成果を最大限に引き出すことが JASRI の使命であり、その中で最も重要な活動が選定委員会となる。SPring-8 は課題数も多く、限られたマシンタイムの中で成果を最大限引き出すことが重要で、数多くの申請の中からビームの特性に合った優れた研究課題を採択いただくことが重要になると思っているのでよろしくお願いしたい。また、課題選定にあたり、国際情勢を踏まえることも重要となっている。本日は課題選定、利用制度あるいは今後の方向性について大所高所からのご意見をいただきたい。

次に文部科学省科学技術・学術政策局 馬場参事官より以下の挨拶があった。

本日の選定委員会にご出席いただき、また様々な観点でご指導いただいていること、改めて御礼申し上げます。文部科学省においては、SPring-8 については理化学研究所、

JASRI と連携しながら成果を最大化すべく努めているところである。1 月の放射光学会で北川先生のノーベル賞の記念講演を拝聴した中で SPring-8 が取り上げられたことを嬉しく思っている。学術、産業の面でも成果を出すことはもちろんであるが、しっかりと成果の周知にも努めたいと考える中で、ノーベル賞の受賞はエポックメイキングな事象であった。政府においては、今年度の経済対策並びに補正予算において、SPring-8-II に向けた整備を進めていく方向性が打ち出され、予算も措置されている。今回の選定委員会でこういった申請があったのか、文部科学省においてもニーズを把握したいと考えている。来年度の 4 月から始まる第 7 期科学技術・イノベーション基本計画のパブリック・コメントが始まったところであるが、その中に SPring-8 を高度化し、世界最高峰の性能を実現するとともに、NanoTerasu 及び J-PARC から創出される成果を最大化すべくビームラインの増設を始めとした機能強化の取り組みと量子ビーム施設の連携、利用制度の在り方の検討を進めるとの記載がある。今後、パブリック・コメントを経て政府として閣議決定することとなり、SPring-8 の重要性は SPring-8-II に向けてこれまで以上に重要になってくるフェーズかと思われる。また、ブラックアウト期間も予定されているので、施設間の連携、利用制度の在り方についても、文部科学省としても審議会などで検討していきたいと考えている。本日もそういった観点でも大所高所からご指導をお願いしたい。

2) 前回議事概要の確認

第 42 回選定委員会の議事概要については、原案通り承認された。

3) SPring-8 の現状について

JASRI より、SPring-8 の利用状況、発表論文数、有償利用収入の推移、BL15XU の共用ビームライン化、SPring-8-II に関する予定等について説明を行った。主な質疑応答については以下の通り。

(以下、◇：委員長又は委員、◆：JASRI、■理化学研究所、□文部科学省)

◇BL15XU を共用化し、BL43IR を共用から外す際の手続きを教えて欲しい。

◆評価という形では行っていないが、理研に設置されている外部有識者も参加する委員会において議論して決定するプロセスを踏んでいる。

◇成果専有が増えているのに伴い、論文数は減っているのか。

◆直近の発表論文数はこれから増えていくので、現時点では減少傾向にはないと考えている。今後、成果専有利用の割合が増えることの影響が現れる可能性はある。

◇利用料収入の伸びに比して申請課題割合は大きく変わっていないようだが、全体の課題数が増えているためか。

◆お示ししたのは課題数の利用割合になっており、利用料収入の伸びについてはシフト数が大きな成果専有利用課題が増えていることも影響している。

◇成果専有利用については制限を設けているのか。

◆シフト数ベースで共用枠全体の 5%というキャップを設けているが、全体としてはそこ

までは達していない。

◇物価、人件費が高騰しているが利用料金設定への対応は検討しているのか。

◆SPring-8、SACLA ともに見直しをする方向で検討している。

■利用料については SPring-8 が共用開始された時点で運営費回収方式として、運転に要した費用を時間/ビームライン本数あたりで割った数字を用いている。SPring-8-II になるとゼロから計算し直す必要があり、現在検討を進めている。

◇ランニングコストは SPring-8-II になると上昇するのか。

■光熱費が下がることは間違いないが、新しい装置の固定資産税等の取り扱いを含めてどのようにするか理研で検討し、文科省とも協議しながら進めている。

□SPring-8 のブラックアウト期間は利用制度についても見直す機会になると考えている。時代に則した形でルールを改めるタイミングとして重視している。JASRI、理研、ユーザーニーズはもちろんであるが、海外施設の状況や他の類似施設も踏まえて持続可能な運営を検討するタイミングであると考えている。今回の選定委員会に限らず、ご意見をお寄せいただきたい。

4) 審議事項

(1) 2026A 期 SPring-8 利用研究課題選定等について

JASRI より、2026A 期 SPring-8 利用研究課題の審査結果の全体概要等について説明があった。大学院生提案型課題（長期型）については通常 B 期に募集するところ、SPring-8-II へのアップグレードに伴う共用利用停止への対応として、2026 年度については A 期に募集を行ったことの説明があった。

続いて、有馬委員（SPring-8 利用研究課題審査委員会（PRC）委員長）（◎）より、PRC 審査結果について、分科会共通の意見、各分科会からの意見、応募採択状況の動向、課題種別・ビームライン別の採択結果と統計等について説明があった。主な質疑応答については以下の通り。

◇採択率が著しく低い XAFS、HAXPES 等の対策についてはどうか。

◆施設者の理化学研究所と相談しながら対応を考えて行くことになると思われる。

◇年 6 回募集になっているので、I 期でビームタイムが配分されなかった申請者が II 期、III 期に申請することが想定される。推察となるが実態以上に競争率が高くなっているのではないか。

◆ご指摘の通りかと推察される。年 6 回募集では、募集するビームタイムが分割されるため、各募集回の配分可能シフトが少なくなる中で成果専有課題、成果公開優先利用課題が入ることで更に配分可能シフトが限られる。半年に 3 回の募集において、複数回の申請を行ったユーザーが一定数確認されており、実態以上に競争率が高くなっているという理解でよいかと考えている。

◇採択率が低いことに対して利用者から意見は出ていないのか。

◆今のところ、具体的なご指摘は届いていない。

◇半年で 3 回募集の場合、募集時期により申請課題数の増減の傾向はあるのか。

- ◆第Ⅲ期が比較的申請数が多い傾向にある。
- ◇成果専有利用が多いビームラインのうち、特定ユーザーが多くを占めているビームラインがあるのでは。成果専有課題はビームタイムに対して何%という縛りは無いのか。
- ◆各ビームラインでは上限 40% となり、その中で成果専有課題と成果公開優先利用課題が共存する形になる。全ビームタイムでは全体の 5% がシフト数ベースで上限となる。
- ◇成果公開優先利用課題の採択率が 100% となっており、課題数も増加傾向にあるが、成果公開優先利用課題において一般課題で行われる科学審査で 2 点未満となるような課題が入ることはないか。
- ◆成果公開優先利用課題は科学審査が免除となり点数が付けられていないことから、確認はできていない。
- ◇成果公開優先利用課題が十分に実施するに足る課題であるというエビデンスはないのか。
- ◇以前は国家プロジェクト等の競争的資金を持っていることで担保していたと理解しているが、企業が申請出来るようにするためにそうした要件を外したと記憶している。現在、企業で成果公開優先利用を使うケースはあるのか。
- ◆何社かご利用いただいている。課題申請においては研究概要までは記載してもらおうが、一般課題ほどに詳細な情報までは記載してもらっていない。ご指摘の通り、以前は競争的資金の課題ということで担保してきたが、企業に門戸を広げてからは厳密な確認は行っていない。競争的資金を持っているユーザーは、申請書に記載される場合が多いため確認することはできる。
- ◇XAFS については NanoTerasu では 100% の採択率になっている一方、SPring-8 では競争率が非常に高い。SPring-8 と NanoTerasu の連携についてはどうか。
- ◆両施設それぞれの特徴に応じてできることがあると考えており、使い分けについてアピールする必要があると考えている。

また、JASRI から、国際情勢を踏まえた課題選定の方針について説明があった。

まとめ：2026A 期 SPring-8 利用研究課題の選定等について、原案通り承認された。

続いて、JASRI より 2025A 期のⅡ期/Ⅲ期 SPring-8 利用研究課題選定結果について説明があった。

(2) 2026B 期（2026 年度後期）SPring-8 利用研究課題の募集および選定について

JASRI より、2026B 期（2026 年度後期）SPring-8 利用研究課題の募集および選定について説明があった。

まとめ：2026B 期（2026 年度後期）SPring-8 利用研究課題の募集および選定について、

補欠課題の設定を含め、原案通り承認された。

(3) 専用施設の評価・審査結果について

金谷委員（SPRING-8 専用施設審査委員会 委員長）（◇◎）より、2025 年 11 月 20 日に実施した京都大学の水素エネルギーマテリアル・マルチモーダル計測ビームラインの設置実行計画審査、量子科学技術研究開発機構（QST）の極限量子ダイナミクス I・II ビームライン（BL11XU 及び BL14B1）の契約延長評価、及び同年 12 月 9 日に実施した NSRRC の ID・BM ビームライン（BL12XU、BL12B2）、京都大学の先端蓄電池基盤技術開発ビームライン（BL28XU）の次期計画審査結果について説明があった。主な質疑応答は以下の通り。

◇京都大学の水素エネルギーマテリアル・マルチモーダル計測ビームラインの設置実行計画について、専用施設審査委員会で指摘されたことについては実際に計画が実行されるまでには改善が期待されるという判断か。

◇◎責任者 2 名（教授及び特任教授）の説明で実際に計画が実行される時までには進むだろうと判断した。

◇今回報告いただく専用施設の延長契約の期間はどのようになっているのか。

◆専用施設の延長契約は最大 5 年となる。

◇ブラックアウト期間中も契約は継続か。

◆契約は継続できるようにしておいて、新しい計画ができた段階で次期計画の審査、再契約という流れになるというイメージである。

◇◎SPRING-8-II を見越して評価時期を設定したのは。

◆評価は契約期間の更新時期に行うため、予定はブラックアウト期間中が目安である。

◇NSRRC（台湾）のビームラインで共用供出決定とあるが、共用供出された部分の運用はどこが行うのか。

◆JASRI でユーザー支援を行うことになる。

◇そのためのスタッフが新たに就くという理解でよいのか。

◆そのように理解している。

◇先端蓄電池基盤技術開発ビームラインの予算的裏付けは委員会時点ではなかったが、計画の内容については評価できるという判断がされたのか。

◇◎委員会時点では予算は確定していなかったが、予算化されるという前提であった。

◇RISING のプロジェクトとしては成果が出ているが、その中で専用施設ビームラインの成果がプロジェクトに貢献しているということをアピールする必要があるのではないか。

◇◎専用施設審査委員会でも同様の指摘があった。

◇専用施設の電気代は各施設が支払っているのか。

■専用施設にかかる電気代は全体の運転費の中に含まれている。別に建屋を作っている場合は、各機関で支払っている。

まとめ：専用施設の評価・審査結果について承認された。

5) 報告事項

(1) 成果の発表等状況について

JASRI より、SPRING-8/SACLA 成果審査委員会資料に基づき、成果公開状況のトピック、成果関係統計資料について報告があった。また、NanoTerasu の共用が開始されたことを受け、利用研究成果集に NanoTerasu の成果を含めるよう改訂を行うことについて説明があった。

(2) JASRI のビームタイム利用について

JASRI より、2025A 期における JASRI スタッフによるビームタイム利用実績の説明があった。また、放射光共用施設の延べ利用時間に対する割合が約 11%との報告があった。

6) 閉 会